

第1回『明専スクール』

制56 石橋 一郎



『明専スクール』とは、就職が決定した学部生・院生を対象に、明専会員（九州工大OB）が大学の先生では教えることのできない知識（企業人としての常識やOBの企業における経験など）を伝授し、自信を持つてスタートダッシュができる社会人として企業に送り出そうというスキルアップ研修です。

西尾一政先生（加47、生命体工学研究科長、明専会常務理事）の発案を受け、北島保和先輩（機36、明専塾運営担当）が運営委員長となり、この企画の実現に向けて動き出したのは1年前でした。ワーキンググループで企画を練りましたが、なか

なかとまらず停滞していたのですが、目玉の講義となるグループ討議を納富啓先輩（加48、元三菱重工長崎研究所長・技監）が引き受けられることとなり、一気に加速しました。

脇を固めるのは、徳丸雅夫先輩（機49、元九州日立取締役）以下、北九州の地元各社の現役組です。最初から数えると10回以上の会合やワーキンググループの作業部会により、このコンセプトに沿ったカリキュラム（表参照）を練り上げ、平成23年12月10日（土）、母校・鳳龍会館での開講となりました。

受講生は、明専会からお願いした複数の先生方から推薦いただいた優秀な学部生（女性3名を含む25名の学生・院生）です。

第1日の開始時には、松永守央学長から学生に激励のスピーチをいただき、山本一元明専会会長（化32）も見学に立ち寄られました。次いで、年明けの1月14～15日は、戸畑エス

カル（海員会館）での泊込み研修を実施しました。つまり、計3日間の研修でした。

高原正雄明専会副会長（機43）は、初日から全研修にオブサーバとして参加されましたが、気合の入ったすばらしい講義と学生たちの熱のこもった様子に大変感心されていました。

さて、研修の内容は、詳細を別表に示すように、初日は、「明専・九州工大 建学の歴史」（私が担当）から始まり、「就職の心構え」（徳丸

雅夫先輩担当）、「モノづくりの現場からI」渡邊英司君（情56、安川電機・環境エネルギー事業統括部長）、

「同II」（平田都洋先輩（金51、山九・品質保証部長）の経験にもとづくお話という講義でした。熱のこもった講義に対し、学生達も「学生の考えを捨てて社会人にならないければならないと思った」とか、「自分の目指すイメージ・ロードマップを持つことの重要性が分かった」、「グローバルな視点で危機感を持つて働かなければならないことがわかった」など、総じて好評で、建学の歴史について、「九州工大卒であること

に誇りが持てた」というコメントが多く、講義して良かったと思いましたが。

1泊2日の研修では、グループ討議が目玉のカリキュラムでした。

その一は、出張報告書を書いたが上司から書き直しを命ぜられるという実体験をしていただき、入社前の研修として、ここまでやった大学は他に無いはずで、明専会として自負できる内容でした。

その二は、事前に配布された雑誌記事・新聞記事（スマートフォン、エネルギー問題、イノベーションの3テーマ）について、グループ討議で我々はどうか対応していくかという報告書をまとめる演習です。これについても、第1回発表時に、OBが厳しい質問をし、30分で書き直させて再発表させるというものでした。

これについては、日をまたいでの討議となりましたが、夜の懇親会が終わった後に、グループ討議をやり始める班も出てきて、納期厳守の対応を入社前に体験できたこととなりました。このグループ討議をサポートしたOB若手3人（植木幹君、電H1、TOTOエレクトロニクスセ

ンター電子機器研究開発グループリーダー。川村憲義君、設制H7、安川電機ロボット事業企画部課長補佐。大谷洋平君、電H12、新日鐵八幡システム制御技術グループマネジャー)もそれぞれ個性のある指導力を発揮し、討議の流れが発散しないよう、うまく指導したと思います。なお3テーマ自体も何が問題なのか考えさせるのに最適なテーマであり、納富先輩のテーマ選択の妙に講師・サポーターの皆が感心致しました。

「品質管理Ⅱ」(山下慎次君、D電H05、安川電機・信頼性技術センタ長)では、さわりだけ話されたタグチメソッドについて、もっと聞きたかったというアンケートコメントもあつたくらい、皆熱心に受講していました。

「モノづくりの現場からⅢ」(山本孝則君、電60、新日鐵八幡・電計中央整備室長)では、会社の実情紹介で、「職場の飲み会の幹事をうまくこなすかどうか上司は良く見ている」などの講義には学生達も「へえーそうなんだ」とびっくりしていました。

研修の最後には、オブサーバとして

て参加いただいた高原副会長も含めて、参加したすべてのOBから、学生へのひとこと「伝授」が述べられ、卒業へのはなむけの言葉となりました。なお、本スクールには、鶴田隆治教授(機54)、白土竜一教授(電59)、赤星保浩教授、木内勝准教授(M情シH7)も参観いただきました。また、受講した全学生への連絡に、facebookのグループ機能を活用したのも、ITツール活用教育と同窓会活動推進を兼ねた試みでした。

(株安川電機)



グループ討議でパワーポイントの出来ばえを見て指導している納富先輩他

カリキュラムの概要

2011年12月10日(土)

- ① 「オリエンテーション」徳丸雅夫(機49)
- ② 「明専～九州工大 建学の歴史」石橋一郎(制56 安川電機 知的財産部長)
- ③ 「就職についての心構え」徳丸雅夫
- ④ 「モノづくりの現場から(I)」渡邊英司(情56)
- ⑤ 「モノづくりの現場から(II)」平田都洋(金51)

2012年1月14日(土)～15日(日)

- ⑥ 「オリエンテーション」徳丸雅夫・北島保和(機36。元 TOTO 常務取締役)
- ⑦ 「企業における品質管理(I)」納富啓(加48)
- ⑧ 「報告書作成のコツ」納富啓
- ⑨ 「グループ討議(I)(出張報告書の作成)」納富啓+下記3人のサポーター
植木 幹(電H01)、川村憲義(設制H07)、大谷洋平(電H12)

上記②④⑤の講義を受講するよう、上司から指示されたという仮定で出張報告書をまとめる。

→発表、OBの厳しい講評→再度書き換えて→発表、再度講評

- ⑩ 「グループ討議(II)(報告書の作成)」同上
事前に配布された、エネルギー、スマートシティ、イノベーションの3テーマについての新聞記事、雑誌記事などを読んで、どう対応していくべきか討議してまとめる(各班に1テーマを振り分け)。
→パワーポイントで報告書を作成し、発表、OBの厳しい講評→再度書き換えて→発表、再度講評
- ⑪ 「企業における品質管理(II)」山下慎次(D電H05)
- ⑫ 「モノづくりの現場から(III)」山本孝則(電60)
- ⑬ 「総括」西尾一政(加47)
(なお、運営サポーターとして木原義幸君(開58 北九州市役所)も参画。上記写真は木原君撮影)